

横浜市立東俣野特別支援学校 学校評価報告書 (令和4年度版)

重点取組分野	令和4年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きて働く知	①新教育課程に基づく授業づくりについて、必要な手続き等の検討及び授業実践を行い、一人ひとりの目指す資質・能力を育むための授業改善に努めます。 ②個別の指導計画の新書式での作成方法の検討を行い、個に応じた的確な指導の充実につなげます。 ③多様な児童生徒の実態に合わせた指導形態や各教科の学習内容を設定し、学習環境を整えていきます。	①各教科の授業づくりに必要な書式や手続きについて検討し実践した。今後も授業改善につながる手続きの検討を続けていく。 ②新書式での作成・記入上の注意事項に関すること、作成スケジュール等についての検討を行った。 ③多様な実態に合わせ、教科学習やオンライン授業やクラスを越えた学習グループの形成など、より児童生徒のねらいが達成できるように指導形態・環境を整えた。	B
豊かな心	①東俣野小学校との交流に関して感染症等を考慮しながら、方法や内容を工夫し活動を実施します。 ②教職員の人権意識を高め児童生徒の自尊感情を育む指導を行います。	①感染症予防の観点から直接的な交流はできなかった。ふれあい交流以外の交流は、オンラインや動画交換、手紙などのやり取りのできる限りの交流を実施した。次年度は直接交流に向けて取り組みたい。 ②研修や情報共有、管理職との連携を通して教職員の人権意識を高め、人権的な視点をもって児童生徒の自尊感情を育む支援、指導を行った。	B
健康保持と増進	①児童生徒一人ひとりの障害の状況に応じた適切な(医療的)ケアに取り組みます。 ②児童生徒の持てる力や可能性を引き出し、個々に応じた取り組みを充実させ、体力増進と健康管理に努めます。	①保護者と連携して、一人ひとりに適切な(医療的)ケアを把握し、取り組んだ。 ②感染症予防への対策を含めた、個々に合わせた口腔衛生指導やうんどうプログラム、体育の授業を通して、健康管理・体力増進に努めた。	B
開かれた学校	①学校運営協議会の更なる充実を目指します。 ②学校運営協議会を通し地域や関係諸機関の方々とともに学校の現状や課題を共有します。 ③保護者に対してPTA定例会などを通して情報交換を密に行い、協力体制をしっかりと築いていきます。	①WEB会議システムの併用により、全委員の参加が可能となり、活発な意見交換ができた。 ②地域防災拠点訓練や地域振興イベントに参加し、特支の諸活動認識向上に貢献した。 ③PTA実行委員会および定例会で、学校の課題についてなど保護者と共有不足があったので、改善していく。	A
いじめへの対応	①日々のクラスでの振り返りに加え、小学部・中学部・高等部での連携を充実させ、児童生徒の小さな変化を見逃さずに学校全体で共有し対応できるようにします。 ②毎月の連絡調整会において、いじめや人権に関わる事案の確認を行います。	①各クラスの日々の振り返りで、いじめのことも含めた確認を行ったり、気になることがあれば部会で共有をした。 ②部会では、月に1回いじめや人権に関わる内容を話題にして周知を図った。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①働き方改革として業務の効率化を図ります。特に会議の持ち方、回数を精選し、教材研究のできる時間を捻出します。 ②肢体不自由児教育における専門性向上を図るため、校内研修の充実や教育委員会が主催する研修会に参加し、スキルアップに取り組みます。	①会議の持ち方については、次年度に向けて分掌の会議設定の見直しを図り、会議日設定の精選を行った。 ②専門性向上のために専門職講師による校内研修の充実や教育委員会主催の研修に派遣・受講し、更なるスキルアップを図ります。	B
キャリア教育	①実践に即した進路支援や地域との関りを活かすなどしてキャリア教育の充実を図ります。 ②自分づくりパスポートの導入を行い、小学部から高等部の学部を意識した更なる連続性・系統性のある進路指導に努めます。 ③社会情勢に留意しながら、一人ひとりに自己実現に向けた進路支援に取り組みます。	①近隣企業等と連携して、学習の積み重ねを発揮するために社会活動(学校便りの配達)ができ、地域へと学習を広げた。 ②児童生徒と共に目標を立て学期末に振り返る機会ができたが、日々の生活に根付いたものにしていくには課題が残ったため、運用の仕方での改善が必要である。 ③児童生徒の実態や願い、家庭環境や必要な福祉サービス等を小まめに聞き取り、感染状況に留意しながら見学や体験を設定することができた。	B
安心安全な学校	①新型コロナウイルス感染症対策として市教委からの通知を基に本校の感染症対策ハンドブックづくりを通して感染拡大防止に努めます。 ②危機管理マニュアルの見直し、防災防犯に対する備品の充実を図ります。	①通知等を参考にしながら、感染症対応ハンドブックの見直しと修正を行い、感染症対策を実施した。 ②「医療機器が必要な子どものための災害対策マニュアル」(国立成育医療研究センター・在宅医療支援室)等を参考に防災備品の見直しを行った。危機管理マニュアルの見直しを継続、今年度はすべての訓練を感染予防に努めながら実施した。	B
学校関係者評価	<p>○コロナ禍での直接交流が思うようにできていなかったことは残念な反面、だからこそICT活用などで間接的な交流ができ、柔軟な取り組みが行われていた。</p> <p>○キャリア教育について近隣の企業訪問など新たな体験ができ、子供たちの達成感につながったことがよかった。</p> <p>○保護者との連携について、個々の意見を真摯に受け止め、今後さらに深めていくことが課題。</p> <p>○学校側の自己評価は控えめな傾向があり、もっと高い評価があってもいいのではないか。</p>		
評価結果に対する学校の見解	<p>今年度当初より本格的に学校運営協議会が実施されるようになり、関係機関のご意見を聞くことができ、また反映することができた。重点取組の「開かれた学校」である程度、軌道に乗ってきたのではないかとと思う。また「キャリア教育」においては進路指導専任を中心に地域の企業との連携を図り、職場実習など行えたのも大きな成果の一つと考える。以上2分野については来年度もさらに推進していかなければならないと思う。その他の分野についても学校が一つとなって進めなければならず、より関係機関の協力をいただけるよう学校として考えていきたい。</p>		
学校経営中期取組目標振り返り	<p>令和4年度から令和6年度の3年間を見通した中期学校経営方針の1年目となる。昨年度に引き続きコロナ禍での取り組みとなり、小学校や地域との直接交流は控えめとなっていた。その中でも学校として「新しい教育課程の取組」「学校運営協議会の充実」「キャリア教育(体験や実習など)の充実」「人工呼吸器生徒の保護者付添完全解消」等進めることができた。来年度以降も地域と共に成長する学校づくりを推進していく。</p>		